

熱帯の有用材 (20)

緒方 健

その他のセンダン科樹木 (2)

前回に続き熱帯アフリカのセンダン科樹木中の残りの樹種について述べる。

3. ボッセ (Bossé) 学名: *Guarea cedrata* (A. Chev.) Pellegr.

ギニアからコンゴにかけての熱帯西アフリカに広く分布し、また内陸ではザイール、ウガンダにまでみられる樹木で、コートディヴォアールからナイジェリアにかけての熱帯降雨林地帯に多い。ボッセの名は市場名としてフランス語圏でよく用いられ、英語圏では学名から単に *Guarea* または芳香があるので *Scented Guarea* と呼ばれる。リベリア～ザイールに分布する *G. thompsonii* Sprague et Hutch. も同様の良材をもつが、*G. cedrata* よりは出材量が少ない。これは樹皮の色から *G. cedrata* の *White Guarea* に対し *Black Guarea* と呼んで区別される。

樹木の形状：樹高 40 (～55) m、直径 1 m またはそれ以上になる常緑高木で、高さ 3 m 程度まで板根が発達する。樹幹は一般に通直、円筒状で、25 m の枝下高がある。樹皮は淡黄色～淡黄褐色でほぼ平滑、老木では大きな薄片状に剥げる。内樹皮はかなり厚く、淡桃褐色で、特徴的な甘い芳香がある。葉は互生し、長さ 10～15 (～20) cm の奇数羽状複葉 (頂小葉はしばしば欠ける) で、2～5 (～7) 対の小葉がある。小葉は長さ 4～28 cm、幅 2～9 cm の楕円形で全縁。花序は長さ 3～7 cm の円錐花序で、葉腋に生じ、淡黄色の小花をつける。花梗や花部は有毛。花卉 4 (～5)、萼は先端が浅く 4 (～5) 裂する。雄ずいは高さ約 6 mm の壺状に癒合し、先端の内側に 8～12 個の葯をもつ。果実は直径 2.5～4 cm の偏球形をした木質、黄色のさく果で、熟すると基部から 2～4 裂開し、2～4 個の種子を出す。種子は径約 1.5 cm、長さ 1.5～3 cm の楕円形で、鮮紅色の仮種皮に包まれる。

木材の特徴：辺材は淡黄褐色で幅 5～10 cm、心材は桃褐色～淡赤褐色 (～赤褐色) で光沢がある。新鮮な材は針葉樹様の芳香をもつが、しだいに薄れる。道管に赤褐色の着色物質を含むことがあるが著しくない。肌目の精粗は中庸で、木理は一般にやや交錯するか波状をなす。気乾比重は 0.62 (0.57～0.64) で重さ、硬さ中庸。顕微鏡的特徴としては、孤立管孔の接線方向の最大径は (130～) 150～180 (～220) μm 。道管の分布数は 6～12/mm²。放射組織はほぼ同性、1～3 列だが、2 列が主体で他は少ない。繊維はすべて隔壁繊維で、1～数個の隔壁を有する。軸方向柔組織は連合翼状～帯状でよく発達し、ルーペでも明瞭である。鎖状をなす多室結晶細胞が存在する。放射組織にシリカを含むが、多くない。*G. cedrata* にくらべ *G. thompsonii* は一般に比重がやや高く、より濃色で、新鮮時にも芳香は乏しい。また道管の分布数が少

OGATA, Ken: Useful Timbers in the Tropics (20) Other Species of Meliaceae (2)
農林水産省森林総合研究所木材利用部

なく、放射組織は異性で、シリカは含まないなどの違いがある。

木材の加工性としては、乾燥は比較的早く大きな狂いなどの障害もないが、ヤニが出ることもある。乾燥後の寸法安定性は高い。切削加工性も良く、接着性、塗装性も問題ない。製材時の塵埃で皮膚や

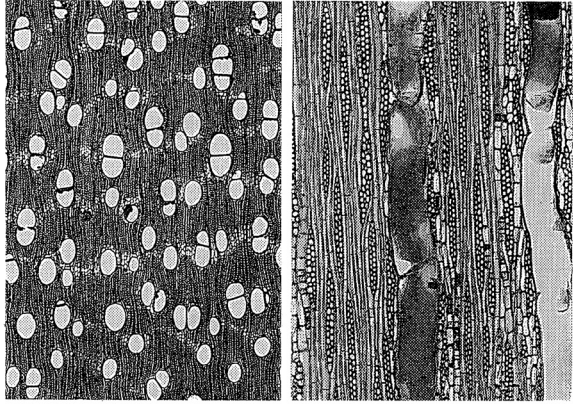


写真-1 *Guarea cedrata*
木口面 (16×)

写真-2 同
板目面 (40×)

鼻、喉などの粘膜が刺激されることがあるという。耐久性は中庸。心材への薬剤の注入は困難である。用途としては、マホガニーの代用として家具、高級造作材、フローリングなどに用いられる。

Guarea 属はアフリカに約 20 種、南米に約 160 種ある大きい属であるが、多くは木が小さいか量的に限られる。有用材として知られるものにはコンゴ、ザイールの *G. laurentii* De Wild., 中南米の *G. excelsa* H.B.K., *G. trichilioides* L., *G. guara* (Jacq.) P. Wils. があり、いずれも材質は *G. cedrata* に似る。

4. その他 (多くは乾燥地の樹木で、一般に樹高 15~25 m 程度と小さい。)

(1) *Carapa grandiflora* Sprague (ウガンダ, タンザニア) および *C. procer* DC. (ギニア~ナイジェリア): マホガニーに似た良材で、気乾比重 0.60~0.70。この属の樹木では中南米熱帯の Andiroba: *C. guianensis* Aubl. がよく知られる。

(2) *Ekebergia rueppeliana* (Fresen.) A. Rich. (ウガンダ~タンザニア) および *E. senegalensis* Juss. (セネガル~スーダン, ウガンダ): *Ekebergia* 属は一般に辺・心材の区別のない淡色 (淡黄白色~淡灰黄色) で、やや軽軟な材をもつ。南アフリカの *E. capensis* Sparrm. (気乾比重 0.50~0.60) が比較的知られている。

(3) *Pseudocedrela kotschy* (Schweinf.) Harms (セネガル~カメルーン~ウガンダ): 心材は赤褐色でマホガニーに似るが、やや重硬 (気乾比重 0.72~0.85)。

(4) *Trichilia* spp.: *Trichilia* 属は熱帯アフリカおよび中南米熱帯に約 300 種がある。アフリカの主な樹種としては *T. emetica* Vahl (セネガル~スーダン, ウガンダ), *T. gilgiana* Harms (ナイジェリア~ザイール), *T. monadelph* (Thonn.) De Wilde (= *T. heudelotii* Planch. ex Oliv.) (ギニア~ザイール), *T. priuriana* A. Juss. (シエラレオネ~スーダン, ザイール) がある。樹種によって比重などに違いがあるが、概ね桃褐色~赤褐色のマホガニータイプの材をもつ。